

はじめに

会長 松村 雅文（香川大学教育学部）

21 回目になる今年の「天文教育研究会」は、福島県郡山市において開催されました。風光明媚な磐梯熱海温泉の町で、色々な形で天文教育普及に携わる方々と交流し、色々な知見を増やすことができた意義深い研究会でした。参加者数は 80 名でした。

今回のメインテーマは「受信！発信！！天文教育」でした。天文教育普及研究会の大きな特色の一つは、学校教育関係者、社会教育関係者、天文愛好家、研究者など、色々な分野の方々が参加していることです。各分野で実践されている天文教育普及の手法についての情報交換と議論を行い、更なる天文教育普及を目指すことを意図して、以下に記す招待講演と企画セッションが企画されました。

招待講演は、東北大学教授・日本天文学会理事長の土佐誠氏に「天文学の楽しみ：天文学の教育・普及活動の現場から」のタイトルで講演をしていただきました。ご自身が天文に興味を持たれたきっかけ、仙台市天文台との繋がりや大学での教職の経験などを披露していただきました。参加者全員にとって、大変興味深く、かつ参考になるお話でした。

企画セッションは二つ行われ、一つ目は「星空教室、星空案内、星空ガイドツアー、大研究」のタイトルでした。夜空の観察指導は、天文教育普及に係わる私たちにとって、重要な“スキル”と言えます。本大会への参加者一同が、“お客”になり、全国の 8 名の“星空案内人”、“星のソムリエ”たちに、“星空”の案内をしていただきました。残念なことに天気が悪く、室内での実施になりましたが、ユーモアたっぷり・工夫たっぷりの案内に、大いに盛り上がりました。参加者アンケートにより各賞が決まり、優勝は堀井敬之氏でした。

もう一つの企画セッション「天文教育コミュニティーの結集に向けて」は、シンポジウムの形式で行われました。パネラーとして、日本公開天文台協会会長の小関高明氏、日本プラネタリウム協議会会長の加藤賢一氏、日本天文学会教育委員会委員の松本直記氏にご参加いただき、当会会長の松村も加わりました。天文教育普及に関する諸団体の責任者等が一同に会して議論したのは、日本の天文教育史上、初めてのことと思われまふ。「社会教育施設における指定管理者制度の問題」等、色々なことについて時間超過になるほど報告・議論されましたが、まだ不足であった感は否めず、今後の課題として残されました。

研究発表は、招待講演 1 件、企画セッションの講演 4 件、ポスター 15 件を含め、合計 49 件で、いずれも素晴らしいものでした。内容については、本集録をご覧ください。

オプションツアー「ふくしま天文教育・天文学史跡ツアー」では、会津藩の藩校「日新館」や「日新館天文台跡」などの見学が行われました。

今回の研究会開催については、実行委員長の安藤享平さんをはじめとする東北支部の実行委員の皆様にも、ご尽力いただきました。心からお礼を申し上げます。

さて、来年の研究会は、九州支部が担当する予定です。22 回目になる来年の研究会で、皆様にお会いできることを楽しみにしております。